

## ザ・クインテッセンス／2012. 7月号

### ○集中連載／骨膜グラフトの可能性を探る 第一回歯周組織再生における新たな術式の試み (白石和仁)

\*歯周病治療の中でも再生療法の日本における現状を切除療法と比較をしながらそれぞれの有用性と適応症を述べている。10年以上の長期経過の5症例でそれぞれの術式の特徴と骨膜グラフトの可能性を示している。今回4回の連載で、第1回は総論として骨膜グラフトの解説し、第2回目以降は症例とイラストでそのテクニックを供覧する予定であるようだ。

### ○長期症例に学ぶ(その治療は果たして適正であったか?) 歯周補綴後12年経過症例に学ぶ (夏堀礼二)

\*天然歯であろうがインプラントであろうが、炎症と力のコントロールがうまくいき、患者との信頼関係が確立している症例が、長期成功症例になっていくものであると筆者は述べている。症例の中で初期治療・歯周外科・矯正治療・最終補綴・メンテナンスまでの注意点を示し、補綴設計がこの患者にとって適正であったかなどを考察している。

## 日本歯科評論／2012. 7月号

### ○特集／歯周外科——“基本中の基本”を徹底して学び直す (吉野敏明 松井徳雄 他)

\*“基本中の基本”を徹底して学び直すというサブタイトルの通り、デンタルミラーの持ち方から歯周外科の基本術式まで詳しく説明しています。歯科の書籍にのっていない、いまさら人に聞けないことも丁寧に説明していて、若手の歯科医師のみならずベテランの域に達している歯科医師にも大変参考になる特集です。あなたはデンタルミラーの持ち方に4通りのグリップが存在することを知っていましたか?

### ○高齢者を診る時の新たな視点——木を見て森を見ず、歯を見て口を見ず!?

#### 第7回 食支援とは何か? (五島朋幸)

\*すごいスピードで超高齢化社会になってきている日本ですが、我々歯科医師はこれからは食支援について避けては通れないものになってくるといえます。食支援の目的は対象者の栄養ケアと経口摂取の維持および回復についての2つで、歯科が口の中だけを見ている時代はとっくに終わっています。社会のニーズをきちんと把握し食支援に関わっていくためには是非一読を。

## デンタルダイヤモンド／2012. 7月号

### ○スペシャル・シンポジウム／BSP義歯は総義歯臨床の救世主となるか(阿部二郎 他)

\*近年インプラントが急速に普及してきているものの、高齢化が進む現状においては、義歯の需要はますます増大するものと考えられる。しかし、義歯作製は熟練度に頼る部分も多く、苦手意識をもつ若手歯科医師も少なくない。そこで、本シンポジウムは、歯科医師および技工士のキャリアやスキルにあまり関係なく、効率よく、審美性の高く、かつ高機能の義歯が作製できるBPS (Biofunctional Prosthetic System) を取り上げ、紹介するとともに、討論している。

### ○次の一手／顎関節と咬合に強くなろう—毎日の臨床が楽しくなる⑦

#### 有床義歯の咬合はどうしていますか—機能を高める簡便で的確な咬合構成法 (小出 馨 他)

\*近年有床義歯の審美性と機能性に対する患者さんの要求は高まる一方、補綴治療のさらなる高度化が強くとめられている。そこで本稿では、義歯に与える咬合様式について、リングライズド・オクルージョンを中心に、フルバランスド・オクルージョンとの比較を交えて、その有用性について述べている。

## 歯界展望／2012. 7月号

### ○シリーズ座談会／臨床医による顎関節症への対応を考える 1 (中沢勝宏 他5名)

\*なぜいま顎関節症を勉強したほうがいいのか?と副題がついている。臨床の場では顎関節症は、けっしてめずらしい疾患ではない。しかし、症状の強さや、診断のつきにくい症状を呈したりと、診断や治療に苦慮する事が多い。今回は、顎関節症の治療に造詣の深い、著名な先生方に、一般臨床家でできる対応法を述べていただき、その知識や技術を身につけることが、どんなメリットがあるかを考える指標となると思われる。

### ○特別企画／ブラキシズム患者にインプラントは禁忌か? (牧野 明)

\*歯の咬耗や破折や骨隆起など、「力」の関与を疑う症状は多く口腔内に見られる。しかしこれが「過去の力の結果」なのか「現在も進行形の力の結果」なのかの判断は、困難な事が多い。歯を失った原因の対処を考慮せず、インプラントなどの欠損補綴を行えば、新たなトラブルの可能性は想像できる。今回の企画はインプラント治療における、ブラキシズムへの対処やトラブル回避の方法を考察している。